事例No.	158
公表年度	H28
団体の属性	一般市
団体名	三重県松阪市

事例区分	第三セクター

タグ	・観光 ・地域運営組織 ・会社法法人

事例種類	民間企業の立地が期待できない地域における事業実施

事例内容・タイトル

住民協議会との協働による観光散策ルートの設定

出典

第三セクター改革等先進事例集

事例名	住民協議会との協働による観光散策ルートの設定
団体名	三重県松阪市
法人名	(株)飯高駅

＜地方公共団体のデータ＞※

人口(人)	167,443
標準財政規模(百万円)	40,044
財政力指数	0.63

※ 人口は、住民基本台帳に基づく人口(平成 28 年 1 月 1 日時点)
標準財政規模及び財政力指数は、平成 27 年度決算の数値

＜法人データ＞

[出資等の状況](平成 28 年 3 月 31 日時点)

松阪市	15(50.0%)
その他	15(50.0%)
役職員数(人)	20

[経営状況](平成 27 年度決算)

経常収益	374
経常損益	29
当期純損益	5

(単位:百万円)

資産	93
負債	42
純資産	51

[法人概要](設立目的、業務概要等)

次の目的を達成するため、平成 16 年 10 月 5 日設立された。

①道の駅の運営に関すること
②農林産物を活用した特産品の生産および加工・販売
③飲食店・売店の経営
④温泉浴場の経営
⑤都市との交流事業推進
⑥市からの受託事業(施設維持管理業務)



1. 本事例の概要(取組の内容、ポイント)

本事例は、過疎・少子高齢化が進む地域への民間企業の立地が期待できない地域における事業実施の事例である。地域住民が積極的なかかわりを持つことで、法人と互恵関係を構築したことに特色がある。

具体的には、法人の経営の黒字化を目標とするなかで、道の駅の集客を継続的に確保していかなくてはならないことから、新しい誘客の方法を検討する必要が生じていた。このころ、地域住民による地域づくりを進める住民協議会が設立され、法人と協議会との協働による地域資源を活用した観光散策ルートの設定を行い、一定の誘客を確保したものである。

2．取組みの背景、理由、着手のきっかけ

少子高齢化・過疎化（平成 19 年 10 月住基人口 5,837 人、高齢化率 34.5%　→平成 28 年 10 月住基人口 3,944 人、高齢化率 49%）が急激に進む地域において、観光を主とする民間企業の立地は、望めない状況にあった。こうした状況において、関西方面からの玄関口となる飯高では、道の駅飯高駅を設置し、道路利用者へのサービスを行っていたが、平成 15・16 年度に道の駅の施設を拡大し、地域の活性化を目指したものである。施設拡大時においては、温泉施設を有した道の駅という目新しさもあり、入込客の確保はスムーズであったが、年月が経過する中で、新たな誘客方法を確保し、経営の黒字化を目指す必要があった。平成 19 年に地域住民による地域づくりを進める住民協議会が設立されたのをきっかけとして、積極的な協働を進めた。当該法人の株式を地域住民の方々49 名が保有し、そのうち数名が住民協議会の中心メンバーであったことから、地域課題（経済活動や雇用、地域の方が集え、来客者との交流の場の確保）を共有、解決の方策や協力態勢を確立することとなった。

＜道の駅の利用者数、経営状況の推移＞

	H20	H21	H22	H23
利用者数（人）	374,107	368,736	369,418	349,965
売上（千円）	338,544	333,206	333,028	322,001
当期純損益（千円）	5,709	1,435	2,076	982

3．取組の具体的内容

(1)取組方針とその決定過程

①主要な課題・論点

主要な課題は、以下のとおり

〇施設への誘客の確保と地域活力の向上

②検討内容

道の駅飯高駅周辺施設での、地域資源活用（名所・旧跡等）と高齢者の活用の検討

③決定取組方針と理由

＜方針＞道の駅飯高駅を拠点とする散策用ウォーキングコースの開設と高齢者の健康・活力を活用したガイド制度の確立

＜理由＞中高年の健康志向のなかでもウォーキングに着目、また、歴史ブームにあるなかで、天照大神の国分け伝説等があったことから、誘客が可能であると判断

(2)取組の具体的な進め方

①取組の推進体制及び②関係者との調整内容等

誘客PRをはじめとする情報発信は道の駅、ガイド及び地域資源の掘り起こしや維持管理等は住民協議会が担当

③取組プロセス

地域資源と道の駅の役割を料理にたとえ、相互活用を目指した

〇材料の確保：地域資源の掘り起こし（小津安二郎関連展示品の収集、名所旧跡等）

〇材料の味付：歴史的経過の整理やストーリーの作成（地域の人材の活用）

〇盛り付け：道の駅施設との機能的な融合

〇新たな味付け：道の駅施設のちょっとした工夫や新たな材料や味付け方法の導入

4．取組の効果

平成 25 年度より、ウォーキングコースを重要な地域資源として実施してきたところで、平成 26 年度は、マスコミで取り上げられたこともあり、ガイド利用者 21 団体 1,162 名、コース利用は推計で 5,000 名に及んだ。平成 27 年度のガイド利用者は、18 団体 655 名と減少したものの、道の駅の売上は、平成 19 年度以降減少傾向にあったが、平成 25 年度より平均 4%程度の売り上げ増となった。

過疎・少子高齢のうえ、山間地域という条件に恵まれない地域において、年間入込客数 35 万人超過を毎年確保することができており、地域の農産物の出荷農家数の増加や産品の販売増につながるようになった。

＜道の駅の利用者数、経営状況の推移＞

	H24	H25	H26	H27
利用者数（人）	351,050	356,850	365,287	375,782
売上（千円）	312,901	325,297	332,592	351,976
当期純損益（千円）	3,105	2,381	3,137	5,401

5．今後の課題（今後の方針、残された課題等）

松阪市西部地域の観光交流拠点はもとより、地域振興施設として、地域の活性化と経済効果が図られている。温泉館については近隣市町の同業種施設との競合が厳しいものの、施設全体の利用者数は、指定管理者による経営努力によりほぼ現状維持を保っている。

建築から 10 年が経過したこともあり、施設の老朽化が徐々に出てきている。特に温泉館は、有機物を含んだ水を大量に使用しているため腐食してきているところもあり修繕が必要な箇所がある。

少子・高齢化や地域人口の減少に歯止めがかからず、人材の確保が大きな課題であり、現状のビジネスモデルの見直しは必至である。

6．他団体の参考となり得る点（苦労した点、工夫した点、上手く進んだ理由、反省すべき点等）

利用者への配布目的以外に、メディアへの PR、ボランティアガイド各々のガイド資料としてパンフレットを作成し、有効に活用している。

ボランティアガイドの予約や食事・弁当などの予約は道の駅飯高駅に一本化し、利用者にわかりやすいよう配慮している。

住民協議会と飯高駅が協働でコース上に案内看板を設置し、ガイド無しでも利用できるよう工夫している。

＜参考＞地方公共団体の問合わせ先

担当課	松阪市飯高地域振興局地域整備課	連絡先	0598-46-7114